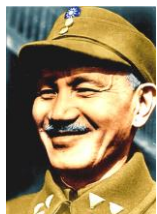


# 第 166 回 日本の侵略と毛沢東の登場

## 1 中国国民党による中国支配の拡大

- ・1925 年 3 月、中国国民党の創設者である（ ）が死去した。  
→黄埔軍官学校の校長（ ）が後継者として（ ）を組織し、（ ）（中華民国国民政府）を成立させた。
- ・1926 年、蔣介石は、北方の軍閥を倒して中国を統一するため、国民革命軍を率いて（ ）を開始した（第 1 次）。  
→南京や上海を占領すると、（ ）から支援を受けるようになった。  
→1927 年、突如（ ）を起こして多数の共産党員を虐殺した。  
→これにより国共合作（第 1 次）は崩壊した（国共分裂）。  
→1927 年、（ ）が成立し、国民党左派の武漢政府と合流した。



蔣介石

黄埔軍官学校の教官に周恩来、生徒には林彪がいた。日中戦争を戦い抜いた指導者として評価されるが、独裁者という批判も強い。



宋家の三姉妹

孫文の妻(左)と蔣介石の妻(右)は、実の姉妹である。三姉妹の父は、浙江財閥の創始者にあたり、蔣介石を援助していた。



当時の上海

1920 年代の上海は、イギリス、フランス、日本などの租界がつくられ、アジア最大の金融都市となっていた。中国近代史の重要な事件が多く起こっている。

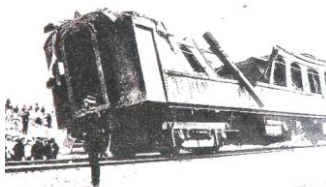
## 2 日本による侵略の本格化

- ・金融恐慌に苦しむ日本は、国民党の北伐により中国での權益を失うことを恐れた。  
→軍や世論は、幣原外相の協調外交などを「軟弱外交」として批判した。  
→田中義一首相は（ ）を行い、済南事件という軍事衝突を起こした。
- ・また日本は、段祺瑞（安徽派）や呉佩孚（直隸派）を破り北京を支配していた奉天軍閥の（ ）を支援していたが、これが蔣介石の北伐軍に敗れてしまった。  
→日本は、満州の直接支配をねらい、奉天で（ ）を起こした。  
→息子の（ ）はこれを知って激怒し、国民政府側についてしまった。  
→1928 年、これにより蔣介石の北伐は完成し、中国は一応統一された。



張作霖

遼寧・吉林・黒竜江のいわゆる東三省を拠点とした軍閥である。このころすでに満州国の建国を計画していた関東軍にとって、敗れた張作霖は用済みであった。



爆殺事件の現場

奉天事件ともいう。北伐に敗れて奉天に帰る途中の張作霖を、関東軍は鉄道を爆破して殺害した。これは関東軍の暴走であり、日本政府は何も知らされていない。



張学良

張作霖の長男。父親の死後は国民党を支持したが、抗日を唱える共産党に共鳴し、西安事件という大事件を起こすことになる。

- ・1931 年、日本の（ ）は、奉天郊外で南満州鉄道を自ら爆破しこれを中国軍のしわざと発表する、いわゆる（ ）を起こした。  
→関東軍は、即座に軍事行動を起こして満州全域を占領した（ ）。

### 3 満州国の建国

- ・1932年、日本人殺害事件を原因に、( ) という武力衝突が起きた。
- ・1932年、満州事変を調査するため、( ) が派遣された。



溥儀  
清朝最後の皇帝である宣統帝。関東軍のあやつり人形であり、実権はなかった。

☆ ( ) (1932～1945年)

都…新京(長春)

- ・1932年、満州を占領した関東軍は、清朝最後の皇帝であった( ) を執政(1934年から皇帝)にすえて、満州国を建国した。  
→1932年、承認を渋る犬養毅首相が( ) で暗殺された。  
→1933年、リットン調査団の報告に基づき、国際連盟の総会で日本の満州撤兵が勧告されたため、日本は( ) した。  
→1933年、日本は熱河を満州国に組み込んだ。  
→1935年には、河北省に冀東防共自治政府という傀儡政権をたてた。
- ・1934年にはワシントン海軍軍備制限条約を破棄し、1936年にはロンドン軍縮条約からも脱退して、日本は国際社会から孤立していった。



リットン調査団

リットン卿(中央のスーツ姿の男性)を中心とする調査団が、国際連盟から派遣された。報告では、日本の権益を認めつつも、満州事変を日本の侵略行為と結論づけた。



五・一五事件で暗殺された犬養毅

1932年、日本では軍の青年将校により、犬養毅首相が暗殺された。「話せばわかる」→「問答無用!」のやりとりが有名。これ以後、軍部の発言権が増していった。



退席する松岡洋右

勧告案が42対1で採択されると、松岡洋右は英語のスピーチをした後に退場した。日本では英雄として迎えられた。

### 4 毛沢東の登場

- ・蒋介石の国民政府は、関税自主権の回復に成功すると、世界恐慌の混乱を抑えるために法幣を発行する( ) で通貨を統一し、中国の支配を強化した。
- ・一方で弾圧された中国共産党は、各地の農村に拠点をうつしていた。  
→なかでも( ) は、井崗山を拠点として( ) を率いていた。

☆ ( ) (1931年～1937年)

都…( ) ※江西省にある

- ・1931年、毛沢東を中心に各地の共産党勢力がまとめられ、臨時政府が成立した。  
→国民党はこれを攻撃したため、1934年、陝西省の( ) へ大移動した。  
※これを( ) といい2年間で1万2500kmの大移動となった。  
→長征途上の1935年、コミンテルンの方針で( ) を発表し、日本の侵略と戦うため、内戦の停止と( ) の結成を訴えた。



若き毛沢東

元々は歴史の先生であり、その頃に陳独秀や李大釗と会っているらしい。中国共産党結成には、創立メンバーとして参加している。



大雪山を越える紅軍

実際には敗走に近く、10万人の兵力は数千人にまで減った。しかし途上の遵義会議で毛沢東の指導権が確立されるなど、共産党の転換点となった。



毛沢東とゆかいな仲間たち

延安時代の1937年に撮られたと思われる写真。右から毛沢東、朱徳、周恩来。後に中華人民共和国の中心人物となるメンバーである。